

2021年12月16日

各位

会社名 株式会社ブロードエンタープライズ
代表者名 代表取締役社長 中西 良祐
(コード番号：4415 東証マザーズ)
問合せ先 経理部長 渡邊 宗義
(TEL 06-6311-4511)

東京証券取引所マザーズへの上場に伴う当社決算情報等のお知らせ

当社は、本日、2021年12月16日に東京証券取引所マザーズに上場いたしました。今後とも、なお一層のご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2021年12月期(2021年1月1日から2021年12月31日)における当社の業績予想は、次のとおりであります。また、最近の決算情報等につきまして別添のとおりであります。

【個別】

(単位：百万円、%)

項目	決算期	2021年12月期 (予想)		2021年12月期 第3四半期累計期間 (実績)		2020年12月期 (実績)		
		対売上 高比率	対前期 増減率	対売上 高比率	対売上 高比率			
売上高		2,439	100.0	53.6	1,587	100.0	1,588	100.0
営業利益		545	22.3	118.0	230	14.5	250	15.7
経常利益		525	21.5	167.9	215	13.6	196	12.3
当期(四半期)純利益		345	14.1	155.6	135	8.5	135	8.5
1株当たり当期 (四半期)純利益		144円92銭		56円80銭		56円84銭		
1株当たり配当金		未定		—		0円00銭		

- (注) 1. 当社は、連結財務諸表及び四半期連結財務諸表を作成しておりません。
2. 2021年8月31日付で、普通株式1株につき2株の株式分割を行っておりますが、2020年12月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり当期(四半期)純利益を算出しております。
3. 2020年12月期(実績)及び2021年12月期第3四半期累計期間(実績)の1株当たり当期(四半期)純利益は、期中平均発行済株式数により算出しております。
4. 2021年12月期(予想)の1株当たり当期純利益は、公募予定株式数(515,000株)を含めた予定期中平均発行済株式数により算出し、オーバーアロットメントによる売出しに関する第三者割当増資分(最大109,200株)を考慮しておりません。

【2021年12月期業績予想の前提条件】

本資料に記載の2021年12月期の業績予想数値は、2021年9月までの実績値に10月以降の予測数値を合算して策定した数値となっております。

1. 当社の見通し

当社は、マンションオーナー、不動産管理会社及びハウスメーカー等が建築・管理する集合住宅を対象にインターネットサービスを提供しております。当社のインターネットサービスは、集合住宅に光回線を敷設するインターネットシステムの導入工事からインターネットシステム導入後のインターネット接続環境の維持、保守サービスまでを「B-CUBIC」というブランドで総合的に提供しております。当社はインターネットサービス事業の単一セグメントで事業を展開しております。

当社事業の特徴は、マンションオーナーや不動産管理会社、ハウスメーカーが期待する入居率を向上させる手段として物件の付加価値を高めたいというニーズに対応するため、「B-CUBIC」の提供と併せてIoT商材である後付けオートロックシステム「プロロック」やセキュリティーカメラといった、セキュリティー周辺設備を同時提供できることが特徴であります。

わが国の経済におきましては、新型コロナウイルス感染症の広がりに伴う緊急事態宣言及びまん延防止等重点措置により、社会経済活動が制限され、景気動向についてもいまだ予断を許さない状況が続いております。このような環境の下、当社事業を取り巻く環境は、遠隔授業やリモートワーク等の普及により、安全で安定したインターネット環境が求められていることから、集合住宅向けのインターネット需要は引き続き高まることが見込まれております。

当社においても、インターネット設備の重要性の認知度が上がり、空室対策の一環として検討されるお客様が増加いたしました。その結果、「B-CUBIC」に対して多くのお問い合わせをいただき、受注件数は順調に増加いたしました。また、IoTは室内設備、マンション設備及び家電とインターネットを接続し、生活の利便性・快適性を向上させるため、マンションの付加価値をあげるIoTマンションとして注目も上がってきており、当社IoTサービスであるオートロックシステム「プロロック」への問い合わせも増加しております。加えて、お客様及び当社従業員の安全を最優先に考え、お客様とのWEBを使った商談の増加、当社従業員の在宅勤務の推進及び当社従業員に対するPCR検査の実施等、新型コロナウイルスへの対策を最優先しながらも、「B-CUBIC」のサービス提供体制強化、回線品質の維持・向上にも取り組んでまいりました。

この結果、当第3四半期累計期間の業績は、売上高1,587百万円、営業利益230百万円、経常利益215百万円、四半期純利益135百万円となりました。

当社の2021年12月期第4四半期の業績につきましては、引き続きインターネット設備の需要は好調であり、新型コロナウイルス感染症の影響によりインターネット設備の需要が高まったことが追い風となり当社サービスへのお問い合わせが増加している状況を鑑み、事業拡大に必要な人員確保を進めております。

このような状況のもと2021年12月期は、売上高2,439百万円（前期比53.6%増）、営業利益545百万円（118.0%増）、経常利益525百万円（167.9%増）、当期純利益345百万円（155.6%増）と増収増益を見込んでおります。

2. 業績予想の前提条件

(1) 売上高

当社のインターネットサービスに関する売上高は、サービス導入時に発生する一時収益であるイニシャル売上と長期契約による継続収益であるランニング売上の収益構造となっており、概ねイニシャル売上が6割、ランニング売上が4割となっております。これに基づき、売上高の予想を算出するうえで勘案した前提条件は以下のとおりとなっております。

①イニシャル売上高

サービス導入時に発生する一時収益であるイニシャル売上高は、当社顧客との契約に基づくもの（以下「顧客売上」と通信回線提供会社であるキャリアと当社がインターネット回線契約時に発生する手数料収益（以下「回線売上」）で構成されます。

顧客売上については、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、2018年から2019年の当社売上成長率18%を採用しております。なお、根拠としまして過去3年の全戸一括型マンションISP市場成長率平均値（16.2%）及び営業活動を担う社員数増員（45%増）を加味した結果、前期比18%の成長率は見込めるとして算出しております。算出したこの顧客売上を元に、2020年の1棟あたりの平均受注単価である900千円で割り戻し、工事完了予定棟数（以下「工事棟数」）を算出しております。

回線売上については、上記工事棟数に平均手数料単価である30千円を乗じて算出しております。

なお、2021年12月期の見通しについては、残期間の確実性を考慮して9月までの各実績数値に加え、それぞれ下記数値を加算する方法により算出しております。

顧客売上については、契約は完了しているものの工事が終わっておらず売上計上されていないもので工事完了が期末までに終わると見込まれる分（以下「受注残」）の契約額と、契約にはいたっていないものの契約・工事完了が見込まれる分（以下「契約残」）の契約額に受注確度に基づいた係数をかけ合わせた額を加算して算出しております。

回線売上については、上記受注残及び契約残棟数に平均手数料単価である30千円を乗じて算出しております。

2021年12月期第3四半期累計期間のイニシャル売上高は1,027百万円となっております。

②ランニング売上高

継続収益であるランニング売上高は、既存契約分の継続収益に新規契約分の加算及び解約見込み分を減算して算出しております。

新規契約分の加算については、顧客との契約形態の違いから機器の所有権が当社所有の場合と顧客所有の場合に分解しそれぞれの継続単価を用いております。分解割合は2020年実績に基づき当社所有90.1%及び顧客所有9.9%となっており、それぞれの継続単価は年間98千円と84千円となっております。この継続単価に上記イニシャル売上高で算出した工事棟数を乗じて新規契約分を算出しております。

解約見込み分については、解約及び値下げ等2020年実績金額に基づき減額率0.5%を加味して算出しております。

なお、2021年12月期の見通しについては、9月までの実績金額に上記計算に伴い算出した残り期間に相当する金額を加算しております。

2021年12月期第3四半期累計期間のランニング売上高は483百万円となっております。

このような状況のもと、2021年12月期は、第3四半期累計期間の実績に第4四半期会計期間の見込みを加えた2,439百万円（前期比53.6%増）を見込んでおります。

(2) 売上原価、売上総利益

売上原価についても収益と対応する形で、サービス導入時に発生する一時費用であるイニシャル原価と長期契約による継続費用であるランニング原価の費用構造となっております。

①イニシャル原価

サービス導入時に発生するイニシャル原価は、通信設備の導入工事費及び成約に至った場合の紹介手数料等で構成されており、新規契約棟数に比例し増減するため、イニシャル売上高に対する原価率を用いて算出しております。当該原価率については、2020年12月期下半期の実績原価率平均である25%を用いて算出しており、回線売上にかかる原価はございません。

なお、2021年12月期の見通しについては、9月までの実績金額に上記計算に伴い算出した残り期間に相当する金額を加算しております。

2021年12月期第3四半期累計期間のイニシャル原価235百万円となっております。

②ランニング原価

サービス提供に伴い発生する継続的な費用であるランニング原価は、回線費用、ISP（インターネットサービスプロバイダ）費用及び機器償却費で構成されており、2020年12月の実績額に新規契約に係る上記回線費用等に加え、ランニング売上高と同様の方法にて算定した解約見込み分を差し引く方法で毎月積み上げて算出しております。

なお、2021年12月期の見通しについては、9月までの実績金額に上記計算に伴い算出した残り期間に相当する金額を加算しております。

2021年12月期第3四半期累計期間のランニング原価331百万円となっております。

このような状況のもと、2021年12月期の売上原価は、第3四半期累計期間の実績に第4四半期会計期間の見込みを加えた895百万円（前期比53.8%増）を見込んでおります。

(3) 販売費および一般管理費、営業利益

販売費及び一般管理費については、主に人件費649百万円（前期比31.1%増）、外注費57百万円（前期比38.4%増）、広告宣伝費19百万円（前期比1.1%増）、支払手数料38百万円（前期比38.5%増）及びその他で構成されております。人件費については、事業拡大及び新事業への対応のため、人員計画に基づく人員数の増加（37名増）に想定単価を乗じて予定しております。外注費については、営業拡大のためマンションオーナーとの接点を増やすための施策費用を予算として計上しております。広告宣伝費については、展示会への出展費用、自社WEBサイトの改修及びWEB広告を予算として計上しております。支払手数料については、顧客紹介のための施策に対する手数料及びシステム利用に関する費用を予算として計上しております。

なお、2021年12月期の見通しについては、9月までの実績金額に上記計算に伴い算出した残り期間に相当する金額を加算しております。

2021年12月期第3四半期累計期間の販売費及び一般管理費は751百万円となりました。

このような状況のもと、2021年12月期の販管費は、第3四半期累計期間の実績に第4四半期会計期間の見込みを加えた998百万円（前期比32.0%増）を見込んでおります。

(4) 営業外収益・費用、経常利益

営業外収益及び営業外費用については、過去3年間の実績に基づいた見積もり及び当期に発生が見込まれるものを計上しております。営業外収益については、助成金及び小売電気事業の権利売却に伴う収入8百万円となっております。また営業外費用については、借入に係る支払利息17百万円（前期比28.2%増）及び債権流動化に係る売却損5百万円（46.6%増）を見込んでおります。

なお、2021年12月期の見通しについては、9月までの実績金額に上記計算に伴い算出した残り期間に相当する金額を加算しております。

2021年12月期第3四半期累計期間の経常利益は215百万円となりました。

このような状況のもと、2021年12月期の経常利益は、第3四半期累計期間の実績に第4四半期会計期間の見込みを加えた525百万円（前期比167.9%増）を見込んでおります。

(5) 特別利益・損失、当期純利益

特別損益については、見込んでおりません。また法人税額等については、利益計画に基づいて、課税所得を見積もり、その課税所得に見積実効税率を乗じることにより法人税額を算出し、税効果会計の影響を加味して法人税等合計額を算出しております。

2021年12月期第3四半期累計期間の実績において特別損益として固定資産除却損が3百万円発生しており、当期純利益は135百万円となりました。

このような状況のもと、2021年12月期の当期純利益は第3四半期累計期間の実績に第4四半期会計期間の見込みを加えた345百万円（前期比155.6%増）を見込んでおります。

【業績予想に関するご留意事項】

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は様々な要因によって異なる場合がございます。

以上

2021年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

2021年12月16日

上場会社名 株式会社ブロードエンタープライズ 上場取引所 東
 コード番号 4415 URL https://broad-e.co.jp
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 中西 良祐
 問合せ先責任者 (役職名) 経理部長 (氏名) 渡邊 宗義 TEL 06 (6311) 4511
 四半期報告書提出予定日 - 配当支払開始予定日 -
 四半期決算補足説明資料作成の有無: 無
 四半期決算説明会開催の有無: 無

(百万円未満切捨て)

1. 2021年12月期第3四半期の業績 (2021年1月1日～2021年9月30日)

(1) 経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年12月期第3四半期	1,587	-	230	-	215	-	135	-
2020年12月期第3四半期	-	-	-	-	-	-	-	-

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年12月期第3四半期	56.80	-
2020年12月期第3四半期	-	-

- (注) 1. 当社は2020年12月期第3四半期については、四半期財務諸表を作成していないため、2020年12月期第3四半期の数値及び2021年12月期第3四半期の対前年同四半期増減率は記載していません。
 2. 当社は、2021年8月31日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っておりますが、2020年12月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり四半期純利益を算定しております。
 3. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの当社株式は非上場であり、期中平均株価が把握できないため、記載していません。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年12月期第3四半期	2,383	589	24.7
2020年12月期	2,049	454	22.2

(参考) 自己資本 2021年12月期第3四半期 589百万円 2020年12月期 454百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年12月期	-	0.00	-	0.00	0.00
2021年12月期	-	0.00	-	-	-
2021年12月期 (予想)	-	-	-	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無: 無

3. 2021年12月期の業績予想 (2021年1月1日～2021年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	2,439	53.6	545	118.0	525	167.9	345	155.6	144.92

- (注) 1. 直近に公表されている業績予想からの修正の有無: 無
 2. 当社は、2021年8月31日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っておりますが、2020年12月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり当期純利益を算定しております。
 3. 2021年12月期の1株当たり当期純利益は、公募株式数(515,000株)を含めた予定期中平均発行済株式数により算出し、オーバーアロットメントによる売出しに関する第三者割当増資分(最大109,200株)を考慮していません。

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2021年12月期3Q	2,384,000株	2020年12月期	2,384,000株
② 期末自己株式数	2021年12月期3Q	－株	2020年12月期	－株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2021年12月期3Q	2,384,000株	2020年12月期3Q	－株

(注) 1. 当社は、2021年8月31日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っておりますが、前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して株式数を算定しております。

2. 当社は2020年12月期第3四半期については、四半期財務諸表を作成していないため、2020年12月期第3四半期の期中平均株式数は記載しておりません。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述についてのご注意)

本資料に記載されている業績の見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P. 2「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	2
2. 四半期財務諸表及び主な注記	3
(1) 四半期貸借対照表	3
(2) 四半期損益計算書	5
第3四半期累計期間	5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	6
(継続企業の前提に関する注記)	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	6
(追加情報)	6

1. 当四半期決算に関する定性的情報

文中の将来に関する事項は、当四半期会計期間の末日現在において判断したものであります。なお、当社は、前第3四半期累計期間については四半期財務諸表を作成していないため、前年同四半期累計期間との比較分析は行っておりません。

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間(自2021年1月1日至2021年9月30日)のわが国経済におきましては、新型コロナウイルス感染症に伴う緊急事態宣言の発出と解除、新規感染数の増加と抑制に合わせて経済活動の制限と緩和が繰り返され、景気動向についてもいまだ予断を許さない状況が続いております。

このような環境の下、当社を取り巻く業界におきましては、引き続きインターネット環境が注目されており、需要は高まることを見込まれております。

当社においても、マンションへの付加価値であるインターネット設備の重要性の認知度が上がり、空室対策の一環として検討されるお客様が増加いたしました。その結果、B-CUBICサービスに対して多くのお問い合わせをいただき、受注件数は順調に推移いたしました。また、マンションの付加価値をあげるIoTへの注目も上がってきており、IoTサービスであるオートロックシステムへの問い合わせも増えてきております。

一方で、お客様及び当社従業員の安全を最優先に考え、お客様とのWEBを使った商談の増加及び当社従業員に対するPCR検査の実施等、新型コロナウイルスへの対策を最優先しながらも、お客様のニーズに応えるべくオートロックシステムの販体制強化、回線品質の維持・向上にも取り組んでまいりました。

その結果、当第3四半期累計期間における売上高は1,587,561千円、営業利益は230,939千円、経常利益は215,973千円、四半期純利益は135,410千円となりました。

今後も新型コロナウイルス感染症の影響が不透明な中、変異株も出現し、ウィズコロナ、アフターコロナの新常態として、在宅勤務や在宅授業は定着していくと見込まれ、インターネット環境整備に対する需要の高まりは継続することが見込まれます。今後もこれらの市場環境と当社の事業経験を最大限に活用して中期的な事業成長を実現してまいります。

なお、当社はインターネットサービス事業の単一セグメントであるため、セグメントごとの記載をしておりません。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期会計期間末における総資産は2,383,683千円であり、前事業年度末に比べ334,171千円増加いたしました。主な要因は現金及び預金が361,611千円減少したものの、売掛金が496,375千円、工具、器具及び備品が169,992千円、それぞれ増加したことによるものであります。

(負債)

当第3四半期会計期間末における負債は1,794,193千円であり、前事業年度末に比べ198,760千円増加いたしました。主な要因は賞与引当金が7,222千円減少したものの、長期借入金(1年内返済予定含む)が135,581千円、未払法人税等が30,432千円、それぞれ増加したことによるものであります。

(純資産)

当第3四半期会計期間末における純資産は589,489千円であり、前事業年度末に比べ135,410千円増加いたしました。これは四半期純利益計上により利益剰余金が増加したことによるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2021年12月期の業績予想につきましては、本日公表いたしました「東京証券取引所マザーズへの上場に伴う当社決算情報等のお知らせ」をご参照ください。

なお、当該業績予想につきましては、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づき作成したものであり、実際の業績等は、今後様々な要因により異なる可能性があります。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2020年12月31日)	当第3四半期会計期間 (2021年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	720,039	358,427
売掛金	901,482	1,397,858
商品	416	2,380
貯蔵品	1,340	1,066
前渡金	24,381	29,698
前払費用	16,248	24,904
その他	252	185
貸倒引当金	△4,270	△4,630
流動資産合計	1,659,891	1,809,889
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	17,528	27,949
車両運搬具(純額)	1,707	1,047
工具、器具及び備品(純額)	292,205	462,198
有形固定資産合計	311,441	491,195
無形固定資産		
ソフトウェア	11,690	16,040
その他	189	189
無形固定資産合計	11,880	16,229
投資その他の資産		
差入保証金	37,035	38,448
長期前払費用	3,640	2,671
繰延税金資産	25,607	25,238
その他	1,380	9,265
貸倒引当金	△1,365	△9,255
投資その他の資産合計	66,298	66,367
固定資産合計	389,620	573,793
資産合計	2,049,512	2,383,683

(単位：千円)

	前事業年度 (2020年12月31日)	当第3四半期会計期間 (2021年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	60,793	77,348
1年内返済予定の長期借入金	324,666	406,017
未払金	72,263	85,947
未払法人税等	23,073	53,506
未払消費税等	15,897	23,473
前受金	30,959	26,086
預り金	8,378	6,541
賞与引当金	36,660	29,437
その他	272	6,497
流動負債合計	572,965	714,856
固定負債		
長期借入金	991,986	1,046,216
アフターコスト引当金	29,846	32,690
その他	635	430
固定負債合計	1,022,467	1,079,337
負債合計	1,595,433	1,794,193
純資産の部		
株主資本		
資本金	90,000	90,000
資本剰余金	39,515	39,515
利益剰余金	324,563	459,974
株主資本合計	454,078	589,489
純資産合計	454,078	589,489
負債純資産合計	2,049,512	2,383,683

(2) 四半期損益計算書
(第3四半期累計期間)

(単位：千円)

	当第3四半期累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年9月30日)
売上高	1,587,561
売上原価	605,591
売上総利益	981,969
販売費及び一般管理費	751,030
営業利益	230,939
営業外収益	
受取利息	7
助成金収入	5,031
その他	3,444
営業外収益合計	8,483
営業外費用	
支払利息	12,790
債権売却損	5,896
支払手数料	2,500
その他	2,261
営業外費用合計	23,449
経常利益	215,973
特別損失	
固定資産除却損	3,245
特別損失合計	3,245
税引前四半期純利益	212,727
法人税、住民税及び事業税	76,948
法人税等調整額	368
法人税等合計	77,316
四半期純利益	135,410

（4）四半期財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（追加情報）

（新型コロナウイルス感染症の影響に関する会計上の見積り）

新型コロナウイルス感染症の感染拡大や収束時期等を含む会計上の見積りの仮定について、当第3四半期累計期間において、前事業年度より、重要な変更はありません。